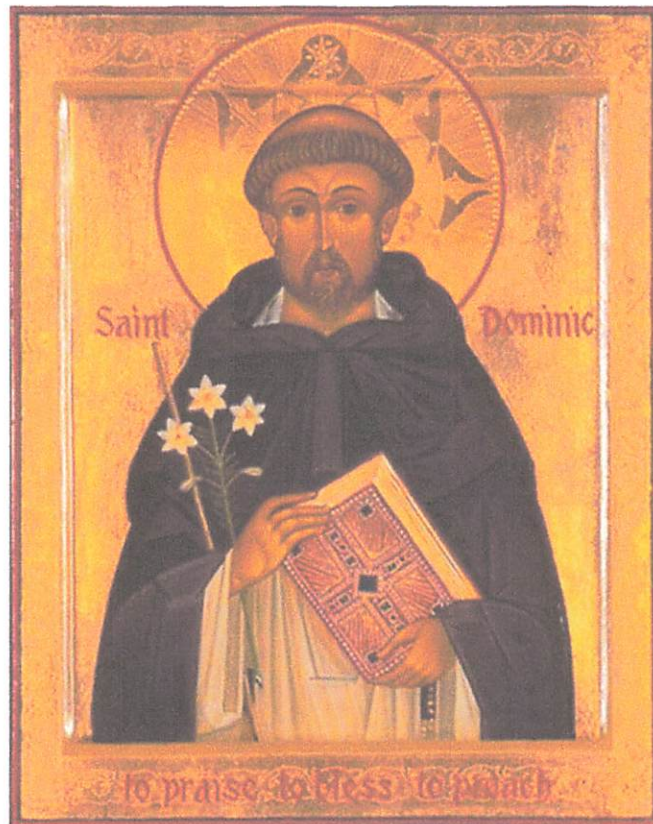


8月8日

(または8月8日にあたる主日)



聖ドミニニコ司祭、創立者の記念日

ドミニニコ会固有典礼の祭日

お持ち帰りにならないで下さい

入祭の歌 (歌わない場合は次の入祭唱を唱える)

入祭唱 (マラキ書、2・6)

真理の教えが聖ドミニコの口にあり、
その唇に偽りは見いだされなかつた。

彼は平和と正しさのうちに、わたしと共に歩み、
多くの人々を罪から立ち帰らせた。

回心・あわれみの賛歌

栄光の賛歌

集会祈願

すべての人の救いを望まれる神よ、

私たちの父、聖ドミニコの教えと模範によって、

あなたの民を照らしてください。

すぐれた説教によって人々を導いた聖人の

取次ぎに支えられ、

真理の光に近づくことができますように。

聖霊の交わりの中で、

あなたと共に世々に生き、支配しておられる御子、

私たちの主イエス・キリストによって。

アーメン。



第一朗読 (イザヤ書、52・7-10)

イザヤの預言

いかに美しいことか、山々を歩き巡り、

良い知らせを伝える者の足は。

彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え、

救いを告げ、あなたの神は王となられた、と

シオンに向かって呼ばわれる。

その声に、あなたの見張りは声をあげ、

皆共に、喜び歌う。

彼らは目の当たりに見る、

主がシオンに帰られるのを。

歓声をあげ、共に喜び歌え、エルサレムの廃虚よ。

主はその民を慰め、エルサレムを贖われた。

主は聖なる御腕の力を、

国々の民の目にあらわにされた。

地の果てまで、すべての人が

わたしたちの神の救いを仰ぐ。

答 新しい歌を主に歌え、
新しい歌を主に歌え。

新しい歌をうたおう。さあ御名をしゆくし、
日に日をついで主の救いを告げよ。

人々に主の栄とその御わざを語ろう。
主は偉大な神、たたえうやまえ。

主の家を飾り、心から拝もう。
人々に告げよう、主こそわれらの王。



第二朗読 (テモテへの手紙、二、4・1~8)

使徒パウロのテモテへの手紙

愛する者よ、わたしは、神の御前で、そして、生き
ている者と死んだ者を裁くために来られるキリスト。
イエスの御前で、その出現とその御国を思いつつ、
厳かにあなたに命じます。御言葉を宣べ伝えなさい。
折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励
ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。だれも
健全な教えを聞こうとしない時が来ます。そのとき、
人々は自分に都合の良いことを聞こうと、好き勝手に
教師たちを寄せ集め、真理から耳を背け、作り話の方
にそれで行くようになります。

しかしあなたは、どんな場合にも身を慎み、苦しみ
を耐え忍び、福音宣教者の仕事に励み、自分の務めを
果たしなさい。

わたし自身は、既にいけにえとして献げられていま
す。世を去る時が近づきました。わたしは、戦いを立
派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守
り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。
正しい審判者である主が、かの日にそれをわたしに授
けてくださるのです。しかし、わたしだけでなく、主
が来られるのをひたすら待ち望む人には、だれにでも
授けてくださいます。

聖ドミニコ続唱（ドミニコ会固有典禮） 任意

- 1 天の国に新しい歌声が
新しいメロディーで 響き渡るように。
- 2 これに合わせて、旅路の私達のコーラスも
聖ドミニコを ほめたたえよう。
- 3 世の造り主は、み旨になつた人を
清貧の道に従うように召された。
- 4 この聖人は、真理の光と愛の火で
民の信仰を やしなつた。
- 5 彼は、その生存中に、子供を死から
よみがえらせて、その母に 返したこともあつた。
- 6 十字架のしるしをすると 雨が降る。
神の恵みでふやされたパンを 兄弟達は食べる。
- 7 ああしあわせな聖人！ あなたの為に
すべての教会は 喜びいさむ。
- 8 全世界に多くの弟子を おくつた彼は、
今は天国に 聖人たちのむれの中に。
- 9 彼は土のなかに隠された一粒の麦のように、
雲に覆われた星のようになった、全ての人を救う為に。

10 造り主なる王は、彼の骨に奇跡の力を与え、
彼の星をカガヤカセタ。

11 その墓は、かんばしい香りをはなち、
遺体は、かぐわしい花のようになった。

12 これを知って めしいや足なえた 多くの人々が
その取り次ぎを願って、奇跡的に いやされた。

13 ああ、高らかに ほめたたえよう、
感嘆すべき 師父ドミニコを。

14 貧しい人々は、彼の手本に従い、
その取り次ぎを 祈り求める。

15 いくしみの父、よい牧者、力ある保護者よ、
いつもお取りつきください。

16 すべてを超える王のみに。
あなたの愛するむれを お助け下さい、いつまでも。

アーメン。



アレルヤ唱 (マタイによる福音書、28・19+20)

典 267 (昇天後週日) ①

全世界に行き、
すべての人をわたしの弟子にしなさい。
わあ、あなたは世の終わりまでいつも、
あなたがたとともにいる。

マタイによる福音 (マタ、5・1+2+13~19)

①

イエスは群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によつて塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。」

「あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

「わたしが来たのは律法や預言者を廃止する



ためだ、と思つてはならない。廃止するためではなく、完成するためである。はつきり言っておく。すべてのことが実現し、天地が消え去るまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。
「だから、これらの最も小さな掟を一つでも破り、そうするようにと人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる。しかし、それを守り、そうするように教える者は、天の国で大きいなる者と呼ばれる。」

または ②

ルカによる福音 (ルカ、10・1~9)

その時、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりの方々のすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。そして、彼らに言われた。

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってください。よ様に、収穫の主に願いなさい。」

「行きなさい。私はあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。財布も袋も履物も持つて行くな。途中でだれにも挨拶をするな。どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、

その平和はあなたがたに戻ってくる。その家に泊まって、そこで出される物を食べ、また飲みなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからである。家から家へと渡り歩くな。

「どこかの町に入り、迎え入れられたら、出される物を食べ、その町の病人をいやし、また、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。いなる者と呼ばれる。」

または ③

マタイによる福音 (マタ、28・16～20)

そのとき、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが復活された後指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」



共同祈願 (信者の祈り)

神が、聖ドミニコを通して行われた
お導きのみ業を感謝しながら、
祈りましょう。

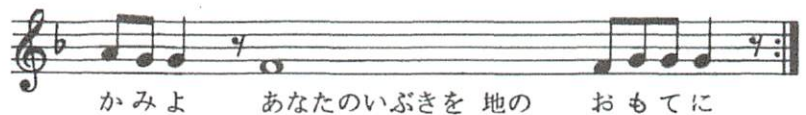
① 神よ、あなたのいぶきを地のおもてに。

あらゆる過ちと迷いから救って下さる神よ、
あなたは聖ドミニコの信仰をたたえる喜びを
お与えになります。あなたの聖いぶきを満た
されて、わたしたち一人ひとりも、
またわたしたちの共同体も、

信仰の礎となった聖人の手本を受け継ぎ、
神の真実と慈悲を世に証されますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。
アーメン

奉納祈願

父なる神よ、「激しい叫び声をあげ、涙を流しながら」人々のために祈っていた聖ドミニコと心を合わせて、この備え物を捧げます。どうか、聖人のように信仰のために戦う人々を守り、教会が、「道、真理、命」である御子と深く結ばれ、あらゆる暗闇に救いの光をもたらすことができますように。私たちの主イエス・キリストによって。
アーメン。



拝領の歌（歌わない場合は次の拝領唱を唱える）

拝領唱（ルカ、10：1、9参照）

主は弟子たちを、御自分が行くつもりすべての町や村に遣わされた、『神の国はあなたがたに近づいた』と告げ知らせるために。

拝領祈願

いつくしみ深い神よ、世紀を超えて、聖ドミニコと同じ食卓に預かった私たちは、御子のとうとい秘跡に養われて、信仰の恵みを豊かにお与えください。聖人の告げたま言葉によって力づけられた教会が、今もその祈りによって支えられますように。私たちの主イエス・キリストによって。
アーメン。

荘厳な祝福（ドミニコ会固有典礼） 任意

聖ドミニコを祝いつつ、神の祝福を願い求めましょう。

* 福音の奉仕者として聖ドミニコを立てた

全能の神である父が、

皆さんの召しだしを

固めてくださいますように。

一同
アーメン

* しもべ聖ドミニコのうちに

わたしたちの救い主のいつくしみと人間への愛をあらわしてください。神が、皆さんを御ひとり子の似姿に変えてくださいますように。

一同
アーメン

* 罪人と貧しい人々に対するあわれみの心を

豊かに聖ドミニコに与えてくださった神が、平和の福音を告げ知らせるために、皆さんを聖霊で満たしてくださいように。

一同
アーメン

全能の神、父と子と ✕ 聖霊の祝福が、

みなさんの上にありますように。

一同
アーメン



聖ドミニコの最期

時は1221年で、ドミニコが北イタリアのポローニャに着いたのは、7月28日の少し前であった。息詰まるような暑さと湿気の中に歩き続け、説教してきた為、すっかり体力を消耗していた。

尽きない相談の後、ドミニコは聖堂に行き、夜を徹して祈った。兄弟達が夜半の祈りの為に聖堂に行くと彼らと共に祈るが、その直後、激しい頭痛に襲われた。高熱と急性の腹痛が続く、既に何回も悩まされていた赤痢の再発であった。

8月の始め、ドミニコはもう立っていることができなくなり、遂に床に着き、身じろぎもせず横たわっていたが、微かに動く唇や表情によって、親しい人々には、彼が祈りに浸っていることが分かった。表情は穏やかで、喜びさえ感じさせられた。

病状は日に日に悪化した。衰弱は著しかった。8月6日の朝、兄弟達は聖父を囲んで、臨終の祈りが始められた。ドミニコは総告白をしたが、誰も彼に罪を認めず、かえってそれはその聖徳の証しとなった。病者の塗油の秘跡が授けられた。ドミニコの容態は、わずかに持ち直したかに見えた。兄弟達は代わる代わる側に行き、泣きながら彼に神への取り次ぎを願った。ドミニコは「泣かないでください。生きている間よりも死んでからの方が役に立つでしょうから」と答えるのであった。

院長はドミニコの耳元で言った。「父よ、どんな悲しみの中に私達を残されるかご存じでしょう。どうか主のもとで私達を思い出し、私達の為に祈って下さい。」

ドミニコは、手を天に上げ、丁度、主イエスが最期の夜に父に祈られたように「聖なる父よ、私が心を尽くしてみ旨をおこなった事をご存知です。私にお託しになった人々を守り、保ってきました。今、この人達をみ手に委ねます。どうか、彼らを保ち、守って下さい。」

院長は、ドミニコの枕元に跪き、彼の頭を支え、顔の汗を拭っていた。「始めなさい」とドミニコが呟いた。兄弟達は、声を合わせて、信仰宣言を唱え、続いて神に霊を委ねる祈りを始めた。微かな唇の動きから、ドミニコも一緒に祈っているのが分かった。一瞬、彼は手を天に上げた。そしてそれが最後だった。それは、丁度、兄弟達が、「主の聖者達よ、彼を助けに来て下さい。主の天使達よ、急いで来て下さい。彼の霊を受け取り、いと高きおん者の前に捧げて下さい。」と祈っている時であった。1221年8月6日の夕刻であった。ドミニコは、まだ50才になっていなかった。

Sr. Maria Benedicta - 武田 教子 - o.p.

(著作『聖ドミニコの生涯』でまとめたドミニコ修道会の歴史より)



聖ドミニコの生涯の概要

聖ドミニコは、1170年にブルゴスに近いカルエガに生まれた。彼はオスマの参事会員であった時、ロシアの流浪民に福音を説く為に召されていたと感じたが、インノセント3世教皇はカタリ派の異端によって荒らされたトゥルーズ地方に彼を送った(1206年)。ドミニコは人々をキリストに連れ戻すには、福音をのべ伝えることと、人々の間で福音に沿った生活をする以外に道はないと悟った。

それ以来、説教と清貧が彼の使徒的活動の魂となるのである。幾人かの同志が加わった時、ドミニコはそれ以外のプログラムを示しはしなかった。彼らは真理に熱中した説教者であり、アシジのフランシスコの跡に従った人々に倣って、托鉢修道士でなければならない。兄弟達が使徒職に携わっている間、姉妹たちは祈りによって彼らを支える。

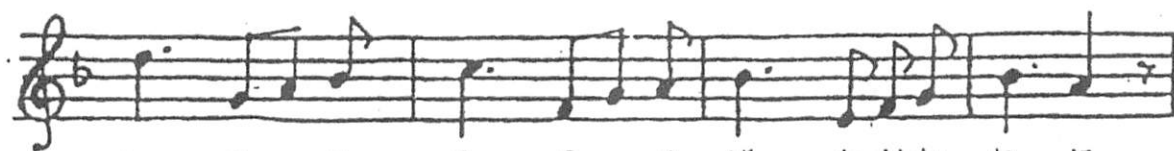
オノリウス3世教皇は、1216年にその会則を認可された。

主はそのしもべに種蒔きの使命を果たさせる為に、5年の日数だけをお与えになったが、ドミニコはその間絶えずフランス、スペイン、イタリアを巡回し、ローマに最後の滞在をしたのち、仕事と苦業に早くも消耗しつくして、1221年8月6日にボローニャで死去した。

その修道女の一人は、次のようにドミニコの面影を描いている。「彼は中骨やせ型で、目は美しく、両の手は長く上品で、その声はよく通り、ほんの少し白髪が交じった髪の毛は剃髪の輪形を完全に保っていました。隣人の悩みに同情して涙ぐんでいる時の他は、いつも微笑んで喜ばしげに見えました。」

Pierre Journel 神父 o.p.

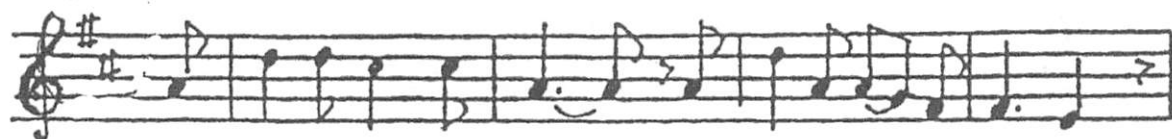
(フランス語の著作『平日ミサ典書』より)



い ま — こ そ そ — そ げ わ が む ね に
き み — が つ ど — い の い の ち も て



と き お や の — ち と — あ い を
う た え か し — あ い — の 詩 を



お / わ が み お や み む ね に — か の う



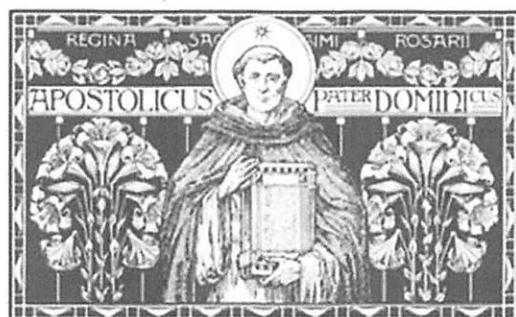
わ が — た ま あ — ま つ み そ ら に



主 の — か た わ — ら に の — ぼ せ よ



み ひ つ の も と に か お る 喬 の と —

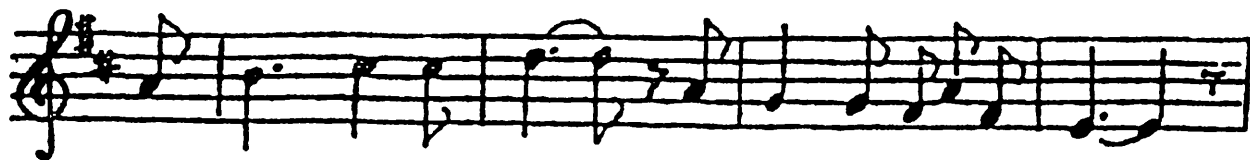


聖ドミニコの歌



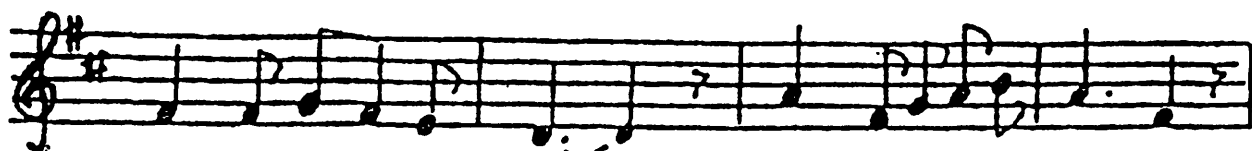
1 ひじり—な る — おしきドミ ニコ

2 ゆたか—な る — おしえととも に



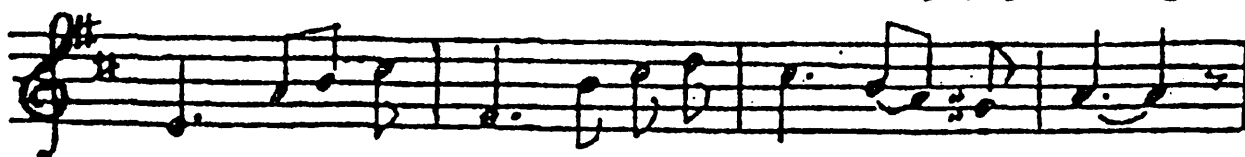
みそらよ—り—こらをみちびけ—

みあるじの—めぐみにこたえ—



いさま—しの—きみがみひかり

よにか—つの—ちからとあいを



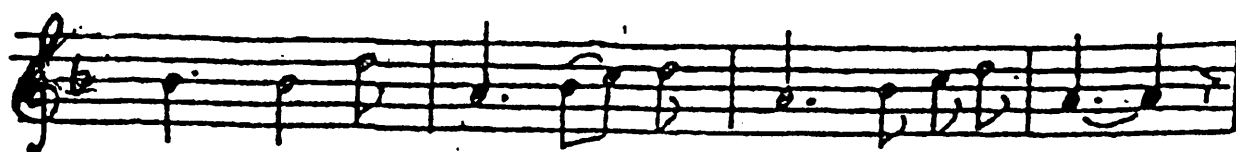
やお—とせさやかにて—らす—

あた—えよき—みがむ—れに—



はるけきむ—かしうばたまの

いとしきこ—らにもゆるむね



よに主のた—みをまもるきみ

あつきいの—りをあたえなん

(典礼聖歌、367番、テ・デウム) 続き

7. すべての人の すくいのために おとめからう ま - - - れ
8. 父の右に 座 - - - し すべてをさばく た め - - - に

7. 死にうち勝ち しんじるもの に 神のく に - をひら - かれた
8. 栄光の う - ち - に ふた た びこら - れ - る

9. とうとい血にあ がなわれた わたしたちをさ さえてください

9. 諸聖人とと も - に とわのいのちを喜ぶことができるように

10. 神よ あなたの民を す - く - い 従う者を しゅくふくし
11. 日ごとに感謝を さ - さ - げ 世々にあなたの名をほ めたたえる

10. いつまでも た - か - め みち び いてく - だ - さい
11. わたしたちを きょ - う - も 罪から おまもりく - だ - さい

12. 神よ ゆたかなあわれみをわ たしたちに あなたによりたのむわ たしたち に

12. あなたにかけたわたしの希 望 は とこしえに ゆるがな い

賛美の賛歌

(典礼聖歌、367番、テ・デウム)

1. すべてのものの主 か - み - よ あなたをたたえて う - た - う
 2. 神の使い ちからあるもの ケルビムも セラフィムも

1. 永遠の父よ せかい は あなたを あがめとう - と - ぶ
 2. たえることなく たからか に 賛美の こえをあげ - - - る

3. 聖なる主 せいなる主 すべてを治める か - - - み

3. あなたの え い - こゝは 天地をお お - う

4. とともに声を あ - わ - せ あなたをほ め - うたう
 5. 世界にひろがる きょうかい も あなたをた た - え - る

4. 救いを告げた よげんしのむれ けだかい 使徒と殉 - 教 - 者
 5. 偉大な父 まことのひとりご あかしの ちからせい - れいを

6. 栄光にかがやく お - う 勝利のキ リーストよ

6. とこしえにあ な - た - は 父のひ と - り - ご

SALVE REGINA

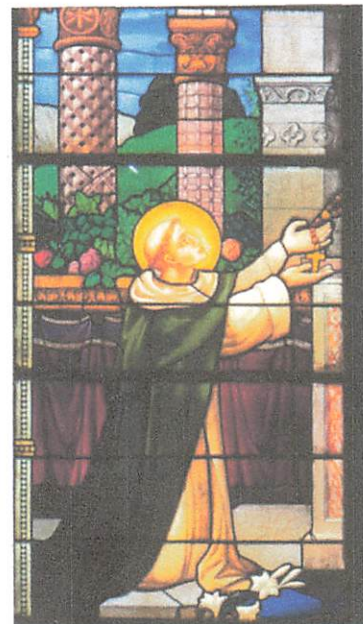
I.
S al- ve, Re- gí- na, ma- ter mi- se- ri- córdi- æ:
Vi- ta, dul- cé- do et spes nostra, sal- ve. Ad
te clamá- mus éxsu- les fí- li- i He- væ. Ad te suspi- rá-
mus, geméntes et fien- tes in hac lacrimá- rum val- le. E- ia
ergo, advo- cá- ta nostra, il- los tu- os mi- se- ri- cór-
des ó- cu- los ad nos con- vér- te. Et Je- sum, bene- dí- ctum
fructum ventris tu- i, no- bis post hoc exsíl- i- um os- tén-
de. O cle- mens, O pi- a, O dulcis
Virgo Ma- rí- a. T. P. Alle- lú- ia.

O LUMEN

VI.
O * lu-men Ecclé- si- æ, Do-ctor ve-ri-
tá- tis, Ro- sa pa-ti-én-ti-æ, E- bur ca-sti-
tá- tis, A- quam sa-pi-é-nti- æ propi-násti gra- tis:
Prædi-cá-tor grá- ti- æ, nös jun-ge be-á- tis.
T. P. Al-le- lú- ia.

O SPES MIRAM

おお父聖ドミニコ、
おお感嘆すべき希望よ、
あなたの祈りによって
わたしたちを
助けてください。





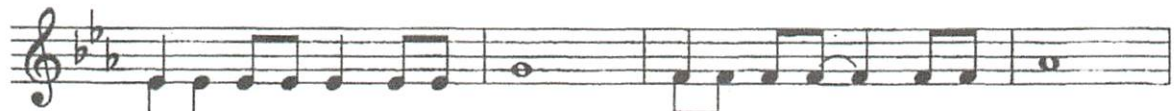
聖ドミニコよ



聖ドミニコよ 満たしたまえ のたまひしごとく



いのりもて われらを たすけ—たまえ



①	きょうかいのひかり	真理の—はかせ
②	ちえの—いずみ	純けつのもはん
③	ふくしゃの—むれに	くわえ—たまえ



①	にんたいのばら	聖ドミニコよ—
②	おんちょう—をとくひと	聖ドミニコよ—
③	わ—れら—を—も	聖ドミニコよ—